ご挨拶

「第33回むし歯予防全国大会in富山」大会会長
富山むし歯予防フッ素推進市民ネットワーク
【And You（あゆ）の会】顧問（富山県議会議員）
山辺美嗣

「第33回むし歯予防全国大会」を富山県で開催するにあたり、大会会長として、また、この大会を主管する富山むし歯予防フッ素推進市民ネットワーク『通称：And You（あゆ）の会』の顧問として、一言ご挨拶を申し上げます。

このAnd You（あゆ）の会（という会）は、健康長寿と歯の長命をめざして、8年前に発足しました。この会は、歯を健康に保つ、つまりはむし歯にならないように予防することがすべてのスタートと確信し、世界の専門機関から推奨されている科学的に優れたフッ化物応用の普及活動を、発足以来行ってきました。私たち国民は、一生自分の健康な歯で楽しく食事をすることができれば、この上ない幸せです。国や日本歯科医師会は、８０２０運動を提唱し、また、富山県におきまして「県民歯の健康プラン」で、県民が生涯にわたって健やかに生活し、おいしくものが食べられるよう、歯と口の健康づくりを目指しております。私達の会は、このプランを市民レベルで支援しようと、毎年県内各地で、フッ化物推進の講演会を開催してきました。そして、６年前から、ＮＰＯ法人日本むし歯予防フッ素推進会議(通称：日Ｆ会議)が、私たちの講演会を共催していただいております。今回の全国大会が富山で開催できますのも、このような積み重ねの結果と受け止めております。

2003年（平成１５年）の1月、厚生労働省が「フッ化物洗口ガイドライン」指針を提示し、「むし歯予防にフッ化物応用は必要不可欠であり、特にフッ化物洗口は公衆衛生的に優れた方策である」として全国の都道府県知事宛に周知徹底を図るために通達（この講演会プログラムの後半に資料）が出されました。県内にはまだまだ、一部では間違った解釈をしている人たちがいて、実施施設がそんなに増えてはいません。それが実施している地域としていない地域の健康格差を生みはじめています。

今回の大会は、その解決策を学ぼうと「健康格差のない社会を目指して－誰でも、どこでも、フッ化物応用で『いい歯で健康、元気富山』」をテーマに、講演やシンポジウムを開催する事になりました。

このような健康格差が見られる場合は是正を図ろうと、海外では法律を制定している国や日本国内には条例を制定している県があります。本大会は、そういう意味で先進的な取り組みをされています国内外の例を二つの講演で、勉強をさせていただきます。基調講演では、「韓国における口腔保健法―フッ化物応用の進展―」と題して、釜山大学教授の金鎮範（キム・ジンボム）先生を、特別講演では、「新潟県における歯科保健―歯科保健条例制定に至るまで―」と題して、新潟県石上和男福祉保健部長にお話をいただきます。石上先生は、歯科医師として全国で初めて、部長職になられた方で、富山県では厚生部長に相当する職ですが、元々は富山県のご出身だそうです。

この大会を契機に、全国で健康格差のない社会が広がるよう期待し、本県でも、県の進めておりますプランの中の「むし歯予防パーフェクト作戦事業」のフッ化物洗口などの推進が、このような県民や市民が望まない健康格差の是正につながることを期待しております。

最後に、この講演会を後援していただきました、日本歯科医師会や富山県をはじめとする関係諸団体ならびに協賛の各社に感謝を申し上げます。また、この第33回むし歯予防全国大会in富山にご尽力いただきました境会長はじめNPO法人日Ｆ会議関係者の皆様方・実行委員の皆様方に感謝と敬意を表するともに、意義在る大会になりますよう、心からご祈念申し上げ、挨拶に変えさせていただきます。

第33回 むし歯予防全国大会の開催にあたって

特定非営利活動（NPO）法人
日本むし歯予防フッ素推進会議
会長　境　　脩

本日、第33回むし歯予防全国大会を、ここ富山市において開催する運びとなりました。その企画運営に当たってこられた富山の多くの方々、組織的な支援で貢献してこられた富山県歯科医師会会長・吉田季彦先生をはじめとする富山県歯科医師会の方々ならびに富山県の県当局をはじめ各地域の行政を担う方々に深甚の謝意を表わすものです。

今日、２１世紀における国民健康づくり運動「健康日本２１」がすすめられ、その運動目標として国民の健康寿命の延伸ならびに生活の質（ＱＯＬ）の向上があげられておりますことは周知のことと思われます。歯を失うことなく、食事と会話を楽しみ、健康美を誇る美しい歯並びは、まさに健康寿命を伸ばし生活の質（ＱＯＬ）の向上に直結する今日の国民的課題です。

今日開催されます「むし歯予防全国大会in富山」での大会テーマ「健康格差のない社会をめざして」は、世界保健機関（WHO）をはじめ世界の多くの健康に寄与する専門機関の共通の課題であります。ここで取り上げますフッ化物の公衆衛生的応用は、私たち日本むし歯予防フッ素推進会議の今日までの３０年を超える活動の中心的課題であり、口腔の健康に資する実効あるう蝕予防対策であり、健康格差のない社会をめざすという崇高な理念を具現化する施策として認識され、ここ数十年にわたり国際的にも広く実施されてきた長い歴史があるのです。

富山県では、平成７年「富山県歯の健康プラン」の策定以来、絶えざる組織的な努力のなか、県内の保育園・幼稚園、小学校でのフッ化物洗口事業が積極的に進められており、県民の健康福祉の向上に多大な成果をあげております。

ここにおいて平成13年5月に発足しました「富山むし歯予防フッ素推進ネットワーク」、愛称「AND YOUあゆの会」をご紹介いたしたく思います。当会報の創刊号によりますと、「２１世紀が幕開けをして、私達は、ようやく歯を失う最大の原因であるむし歯や歯周病を予防する方法を手に入れかけています。世界の多くの国では、フッ素によるむし歯予防法の発見以来、その成果が科学的に証明され、むし歯は完全にコントロールされる疾患になっています。しかし、私達のまわりには、そのような情報は少なく一般市民の知るところとなっていません。そんな中で私達は今、第2次プランの「県民歯の健康プラン」を、市民レベルで支持し、県民の歯・口腔の健康の確保に努め、全身の健康の保持増進に寄与するために活動をすることを目的として、And　You《あゆ》の会を組織しました。」とあります。当会は、今日まで８回の総会・講演会を重ね、１６回にわたる各種のキャンペーン活動を通じて、フッ化物応用の啓発など、長年にわたる地道な活動を続け今日を迎えています。当会の発起人であります山本武夫氏をはじめ多くの関係諸氏に心からの敬意を表したいと思います。

幸いなことに、わが国において現在、各地域の歯科医師会、行政、その他の多くの人々により多数の地域でフッ化物応用による公衆衛生的な口腔保健事業が進み、地域の人々の理解と支援を基に口腔保健の進展のため多大な貢献を成し遂げておりますことはご同慶の至りであります。関係各位には今後とも当該問題に対する深いご理解とご協力、ご支援をお願い申し上げ、併せて本大会の盛会と各位のご健勝を祈念してご挨拶とさせて戴きます。

祝　辞

富山県知事 石井隆一

第３３回むし歯予防全国大会が富山県において盛大に開催されますことは、誠に喜ばしく、心からお祝い申しあげます。

また、全国からご参加の皆様には、ようこそ富山県にお越しくださいました。県民を代表して、心から歓迎申しあげます。

本大会を主催されますＮＰＯ法人日本むし歯予防フッ素推進会議には、日頃から、むし歯予防に必要なフッ化物を応用した様々な公衆衛生活動を展開され、地域歯科保健の推進に多大なご貢献をいただいています。

ここに、境会長はじめ会員の皆様並びに関係の皆様方のご尽力に対し、深く敬意を表し、感謝申しあげます。

さて、健康は「生涯最高の宝」であり、すべての人の願いです。特に、丈夫な歯と歯ぐきを保ち、「生涯自分の歯で食べられる」ことは、健康の基本であります。

このため富山県では、「県民歯の健康プラン」に基づき、「いい歯　カムカム　すこやか富山」を基本目標に、関係機関・団体との密接な連携のもと、むし歯予防対策や歯周病予防対策、かむ機能などの強化対策を重点施策として積極的に取り組んでいます。特に、むし歯予防対策については、乳幼児期や学童期などを中心にフッ化物応用を含めた早期むし歯予防に努めているところです。

こうしたなか、「健康格差のない社会を目指して」―誰でも、どこでも、フッ化物応用で『いい歯で健康、元気富山』―をテーマに、本大会がここ富山県で開催されますことは、健康づくりの推進を通じて「元気とやまの創造」をめざしている本県にとりましても、誠に意義深いことと存じます。本大会を契機として、フッ化物応用が一層普及するとともに、県民の皆様の歯の健康づくりへの関心が多いに高まることを期待いたしています。

皆様方には、これからも、さらに研鑽を重ねられ、地域における歯科保健活動の推進に一層のご尽力をいただきますようお願い申しあげます。

県外からご参加の皆様方には、このたびのご来県を機に、本県の美しく豊かな自然、多彩な歴史・文化、新鮮な海・山の幸など、富山ならではの魅力の数々を大いに実感していただき、心身ともにリフレッシュしていただければ幸いに存じます。

終わりに、大会を主管いただきました山本代表はじめ富山むし歯予防フッ素推進市民ネットワークの皆様に深く敬意を表しますとともに、大会のご成功とＮＰＯ法人日本むし歯予防フッ素推進会議の限りないご発展、ご参加の皆様方のますますのご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申しあげます。

第33回むし歯予防全国大会に寄せて

社団法人 富山県歯科医師会
会 長 吉田季彦

第３３回むし歯予防全国大会が富山県において開催されるにあたり、開催地の歯科医師会長として一言ご挨拶申し上げます。

日本むし歯予防フッ素推進会議会員の皆様方には、日頃から、むし歯予防のために必要なフッ化物応用による種々の公衆衛生活動に対しまして、心から敬意を表する次第であります。

本県では、県民の生涯を通じた歯と歯ぐきの健康づくりを推進するため、『県民歯の健康プラン』が平成13年10月策定され、生涯にわたり自分の歯を保つためには、歯の喪失原因となる歯科疾患の予防が重要であり、従来の『むし歯予防対策』に加え、『歯周病予防対策』を重点施策としています。また、よくかむことは歯科疾患予防だけでなく全身の健康によい影響を与えることから、『かむ機能などの強化対策』についても重点施策とし、あわせて３つの重点施策から、総合的歯科保健対策を推進しています。その中で、フッ化物の応用を含めたむし歯予防対策として「むし歯予防パーフェクト作戦事業」を推進し、教育・指導の強化、歯科健診の充実、予防処置の導入を３本柱として、妊婦（胎児）から中学生までをむし歯予防の重点的ライフステージとし、実施主体である市町村がそれぞれの地域の状況に応じた事業を実施され、大きな成果を上げているところです。

本日は、全国より歯科保健関係者が多数参集され、地域における歯科保健活動のあり方とその効果的な推進方策について研究討議が行われ、今後の実践活動に心から期待するものであります。

最後に、本大会のご盛会をご祝福するとともに本大会の開催にご尽力されました関係者の皆さんをはじめ、ご臨席の皆様方の益々のご健勝とご多幸、併せて日本むし歯予防フッ素推進会議の一層のご発展をご祈念申し上げましてご祝辞と致します。

祝　辞

社団法人　日本学校歯科医会
会長 中田郁平

第33回むし歯予防全国大会の開催を心よりお祝い申し上げます。

近年、学校歯科保健にかかわる方々のご尽力により子どもたちの口腔疾患は軽減され、文部科学省の学校保健統計調査でも12歳のＤＭＦＴ指数は１．５４本と減少傾向が続いております。しかしながら、子どもたちを取巻く社会環境、生活環境の変化から生活習慣、食習慣での課題も提示され、また、学校や地域間における健康格差も存在しているのも現状です。健康教育を主体とした学校歯科保健活動は、歯・口腔を通じ保健教育と保健管理の協調を図り、問題発見・解決型学習を主体とした健康教育の題材として有効であるとともに、人間性の陶冶といった面でも優れ、子どもたちの「生きる力」をはぐくむうえで重要な活動であります。フッ化物応用も、むし歯予防に効果的であることは言うまでもなく、子どもたちがその効果を正しく理解するとともに、健康教育の実践的手法の一つとして取り組まれることで、自ら自己の健康を守る態度など正しい健康観の育成に寄与するとともに、学校における組織活動の活性化にもつながっていくことが考えられます。本大会ではフッ化物の応用について例年、時宜を得たテーマのもと多くの参加者を得て開催されておりますが、学校歯科保健を推進する団体として敬意を表しますとともに、本年の大会もご参加の方々にとって、そして我々学校歯科保健を推進する関係者にとっても誠に有意義な成果が得られるものと期待しております。

結びに本日の大会を主管されましたNPO法人日本むし歯予防フッ素推進会議ならびに富山むし歯予防フッ素推進市民ネットワークの関係各位のご健勝とご発展をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝　辞

社団法人日本歯科医師会会長
財団法人８０２０推進財団理事長
大久保満男

第３３回むし歯予防全国大会が開催されるにあたり一言お祝いを申しあげます。

本日は、全国から多数の歯科保健関係者が富山の地に一堂に参集され、地域歯科保健の普及向上について熱心な研究討議が行われますことに心から敬意を表する次第であります。

昨年は、８０２０運動２０周年記念事業に対しましてご協力をいただき誠に有難うございました。関係各位に対しましてこの場をお借りし御礼申し上げます。

さて、よく８０２０を達成すると自分にとってどういう効果がありますか、と尋ねられることがあります。その時に決まってお答えするのは、第一に、残存歯が多いと何でもおいしく食べられて、お口から栄養を摂取することで健康長寿につながりますとお答えします。二番目に、医療費の削減につながりますとおこたえします。歯の健康状態が良ければそれだけで歯の医療費はかかりませんし、体の健康につながりお医者さんにかかる費用は高くならないで済みます。高齢になり、年金生活となったとき生活費が必要となる中、医療費が高額になりませんよと説明いたしています。さらに、三番目に高齢になっても何時までも健康で、元気でいられて日常生活は質の高い生活が得られますと説明いたしています。

去る６月２３日に政府の経済財政改革の基本方針２００９いわゆる骨太の方針が閣議決定（発表）されました。その中で、「第３章安心社会の実現」、「2. 安全・生活の確保等」、「②生活支援等」の項目の中に、「生涯を通じて歯及び口腔の健康を保持する社会を目指し、８０２０運動を推進する」の一文が明記されました。このことは８０２０運動が社会に浸透してきたことの評価であり、我々及び皆様方の苦労が実を結んできたのではないかと存じております。

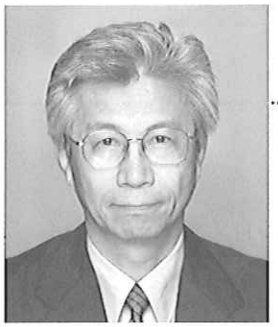
現在、日本では長引く経済不況の中、格差問題が深刻化しています。日本の貧困率の高さは先進国の中でアメリカ、アイルランドに続いて第３位といわれています。格差問題はワーキングプア、お年寄りや若者の年齢別貧困格差、母子世帯、高齢単身者の世帯類型別貧困、低賃金や地域による所得格差、教育における格差、等々いろいろな格差が存在しています。

この中で健康格差という新しい問題が発生しており、経済格差などによって健康状態にも格差ができてしまうという強いリンクが生じてしまいます。昨年７月、新潟県において歯科保健推進条例が制定されました。続いて本年６月には北海道においても制定され、各地域での条例制定の弾みとなっております。国民の皆さんが等しく健康で文化的な生活ができるよう口腔保健法（仮称）制定に繋げたいと存じております。

この度、富山の地において「健康格差のない社会を目指して―誰でも、どこでも、フッ化物応用で、『いい歯で健康、元気富山』―をテーマとして講演及びシンポジウムが開催されますが、実り多い成果が得られますことに大きな期待を寄せております。

最後になりますが、第３３回大会の開催に尽力されました富山県歯科医師会吉田季彦会長並びにＮＰＯ法人日本むし歯予防フッ素推進会議・境脩会長はじめ関係者の皆様に敬意を表しますとともに、本大会ご参加の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

平成２１年１１月１４日



祝　辞　第33回むし歯予防全国大会によせて

一般社団法人　日本口腔衛生学会
理事長　米満正美

第33回むし歯予防全国大会が富山県で開催されること、心よりお祝い申し上げます。

新型インフルエンザの流行が懸念される昨今ですが、このことを考えるとき、学生時代の公衆衛生学で習った「Endemic, Epidemic, Pandemic」ということを思い出します。

齲蝕は感染症だといわれますが、その流行はインフルエンザとは異なり「Pandemic」ではありません。感染様式の相違、地域や国によって有病状況が違うことからも明らかです。「齲蝕は文明病」だともいわれますが、この言葉は20年ほど前までは経済発展をし、物質的に豊かになるにつれて齲蝕が増加していくという意味で使われていたように思います。

WHOのデータバンクに収載されている世界各国の「12歳児のDMFT」を通覧すると、齲蝕の少ない国はアフリカ、東南アジアの発展途上国と欧米の先進国です。前者は経済的に貧しく齲蝕が蔓延するほどの砂糖の消費がない国々であり、後者は砂糖の消費は多いがフッ化物の応用が進んでいる国です。フッ化物の応用が人類の叡知であり、文明の1つだとすると「齲蝕は文明病」もまた然りとも言えます。一方では、砂糖の消費量の増加は肥満、糖尿病、循環器疾患など、いわゆるメタボリックシンドロームとの関連が示唆されていますので、「適切な食生活」と「適切なフッ化物応用」が健康な生活を送る上で重要だと考えられます。

種々の意味で「格差」が論じられる折、今回のテーマが「健康格差のない社会を目指して」ということで、時宜を得たテーマだと思います。社会格差、経済格差は健康にも影響することは明らかであるからです。ヘルスプロモーションは個人の努力は基より、コミュニティをベースとした公衆衛生施策も重要で、この両輪が十分に機能することが「格差」の解消につながることでしょう。

一般社団法人日本口腔衛生学会は、学術団体としてEBMの蓄積とその社会への還元に鋭意努力してまいる所存です。

今大会の成功を祈り、祝辞といたします。

祝　辞

社団法人 日本歯科衛生士会
会長 金澤紀子

このたび、第３３回むし歯予防全国大会が富山県で開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

歯・口の健康は、「食べる」、「話す」、「笑う」など、健やかな日常生活を営む上での基礎であり、また、全身の健康や生活の質を確保し、健康寿命の延伸を図る上でも重要な役割を果たしております。

歯・口の健康づくりの第１歩は、子どもたちのむし歯予防に始まりますが、特に乳歯が生える時、そして永久歯への生え替わりの時に、むし歯を予防し、丈夫な歯をつくることが、生涯にわたる歯・口の健康増進のキーポイントになるといっても過言ではないでしょう。

近年、子どものむし歯は減少傾向にあると報告されていますが、一方では、むし歯のない子どもと、多数のむし歯がそのまま放置されている子どもとの歯科保健上の格差が広がってきているとも報告されており、子どもたちを取り巻く生活や社会の環境が、歯・口の健康問題に大きな影響を及ぼしていることも否めません。

また、むし歯予防は、口腔ケアが行き届いていない高齢者や要介護者にとっても重要な問題であり、歯周病などで露出した歯の根や、歯の根元の部分のむし歯が放置されている現状も多々見受けられます。

このような状況において、本日の全国大会が「健康格差のない社会を目指して」をメインテーマとして開催され、誰でも、どこでも、フッ化物応用の効果に浴することができる環境をつくるために、専門家や一般市民が参加して、ディスカッションが行われることは、これからの歯科保健を推進する上でも大きな成果につながるものと考えます。

また、歯科保健の立場から食育を推進する観点から、乳幼児期・学齢期のむし歯予防、成人期の歯周病予防とともに、食べる機能として「しっかり噛んで、味わい、飲みこむ」という食べ方支援を推進し、高齢者に対しては、口腔機能の向上とともに、誤嚥・窒息防止などの支援を加えた食育への取り組みが求められております。

これらのことから、本日の大会が、「いい歯で健康、元気富山」の実現に向けて、大きなフォローアップとなることを期待しております。

日本歯科衛生士会としましても、「いい歯で健康、元気日本」を目指して活動の輪を広げていきたいと考えております。

最後になりましたが、本日の大会を主催されましたNPO法人日本むし歯予防フッ素推進会議ならびに富山むし歯予防フッ素推進市民ネットワークの皆様に敬意を表しますとともに、今後のますますのご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。